

[掲載紙] 読売新聞「レンゲツツジ」

[掲載日] 2014年11月23日

[テーマ] 日銀での長野宇平治の業績

今年、開業100周年を迎える東京駅の設計者が辰野金吾（1854～1919年）であることは多くの方がご存じであろう。

辰野金吾は、東京駅以外にも、多くの歴史的建造物を世に送り出したが、日本銀行本店もその一つだ。東京・日本橋にある日本銀行本店の旧館（本館）は、明治の西洋式建築物としては、東京・赤坂の迎賓館と並ぶ傑作と言われ、国の重要文化財にも指定されている。

辰野金吾は後進の指導にも大変熱心であったと聞かすが、彼の指導を受けた建築家の一人に、群馬と関わりが深い人物がいることを最近知った。明治・大正・昭和初期を代表する建築家の一人である長野宇平治（1867～1937年）である。

文献によると、長野宇平治は、戦国時代に箕輪城（高崎市）を拠点としながら西上野<sup>にしこうずけ</sup>を支配していた長野氏の末裔<sup>まつえい</sup>にあたるそうだ。日本銀行勤務の経験もあり、われわれ日本銀行職員の先輩にあたる方だ。

日本銀行本店の竣工<sup>しゅんこう</sup>後、各地で支店の建築が始まった。その現場で辰野から直接指導を受けた長野は、北九州市にあった西部支店<sup>さいぶ</sup>や大阪支店等の建築にかかわった。

特に辰野の没後は、名実ともに長野が設計の総責任者となって、旧岡山支店、旧広島支店（2代目）、旧松江支店、本店（2・3号館）の建築等を指揮した。

既に1世紀近くの時がたち、新しい建物に切り替わった支店も少なくないが、今日でも、旧大阪支店（現在は大阪支店旧館）、旧京都支店（現在は京都府京都文化博物館別館）、旧小樽支店（現在は日本銀行旧小樽支店金融資料館）のほか、前述の岡山・広島・松江の旧各支店が現存している。

東京駅開業100周年の今年、これらの地方にお出かけの際は、辰野金吾の指導を受けた群馬ゆかりの人物・長野宇平治が手がけた日本銀行建築を見ていただければと思う。

私も、日本銀行における長野宇平治の業績を胸に、近いうちにぜひ、箕輪城跡を訪れてみたい。

(注) 本寄稿にあたり、柳澤佳雄氏 (エスビック社長) から多くのご示唆を頂いたほか、「上野国群馬郡箕輪城主長野氏興廢史」(斎藤平治郎著) を参考にした。

〔 日本銀行前橋支店長  
富田 淳 〕